

# 人々が集まる明るい場所を取り戻そう！

## 高原城址再生プロジェクト

代表者 江田 紗月 （経済学部経済学科3年）

### 1. 目的と概要

#### 【活動目的】

「再び人々が集まる明るい場所にする」

#### 【活動概要】

本事業は、地域住民との会話から生まれたもので、今年度から始まった。活動のメインスポットである高原城址は、私たち直島地域活性化プロジェクトが経営するカフェ「和 cafe ぐう」の裏山に位置する。桜や梅など、季節の草花が植えられており、瀬戸内海の島々を一望することができる展望スポットだ。

しかし、活動当初は広場に集まる人が少なく、うっそうとしていた。その原因は、草木の剪定不足だ。これは高齢化による人手不足、地域住民の関心の低下によって発生したと考えられる。またそれに付随して、約10本の梅の木が病気にかかり、階段が整備されておらず危険な状態である。また、景観の悪化によって人が集まりにくいという問題が生じている。

この課題を解決するために、①草木の整備②梅の木の伐採③アンケート調査④小学生とのワークショップ⑤菜の花の植栽を計画した。



展望スポット 高原城址



剪定が行き届いていない高原城址

## 2. 実施期間（実施日）

令和2年4月1日から 令和3年3月7日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

### 【今年度の成果】

今年度の成果は以下の2つが挙げられる。

#### ■人手不足問題の緩和

理由

- ・ これまでは地域住民のみで草抜きを行っていたが、活動を通して学生も協力したため

#### ■地域住民の関心の向上

理由

- ・ 活動中に様子を見に来て、声をかけてくれた地域住民が数名居たため
- ・ 地域住民と協同で事業を進めたため

なお、実施計画は①草木の整備②梅の木の伐採③アンケート調査④小学生とのワークショップ⑤菜の花の植栽であったが、実際に行うことができた事項は①②③である。④はコロナウイルスにより中止とし、⑤は梅の木の根の伐採が遅れたため、達成できなかった。

### 【具体的な施策】

#### ① 草木の整備

8月から11月の間、毎月1回、高原城址の草抜きを行った。各回2～3人で約1～2時間の草抜きを行い、高原城址を地域住民や観光客が快適に過ごすことができるよう歩きやすい空間へと整備した。



草抜きの様子



草抜き後の高原城址



## ② 梅の木の伐採

これまでに合計9回、梅の伐採を行い、10本の梅の木を抜くことができた。毎回3～4人で作業を行ったが、多いときは6人で伐採を行った。根の張り方が木によって異なっていて困難な作業となったため、予定より3か月遅れて伐採を終了した。

伐採が遅れた理由としては、事前の計画が不十分であったこと、活動制限により活動頻度が少なかったことが挙げられる。当初は1本あたり1～2時間で抜けると予想していたが、作業が困難で1本も抜けない日もあった。そのため、3か月で約5回の伐採で終了予定だったものが、5か月で9回にわたり伐採することで、ようやく達成できた。



伐採した梅の根



伐採の様子

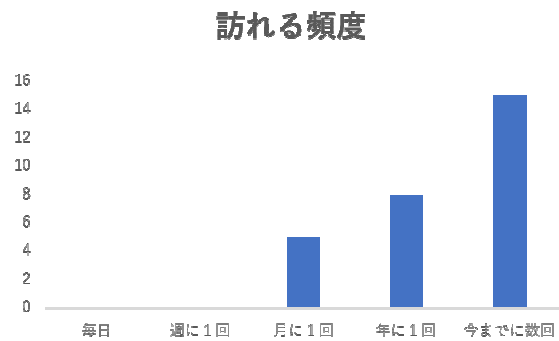
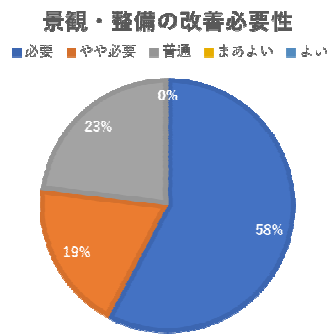
## ③ アンケート調査

地域住民と観光客、それぞれ100名の方にアンケートを配布した。実施期間は8月から10月だ。

それぞれの実施方法について、地域住民用アンケートは、ポスティングを採用し回収箱は町役場に設置した。工夫点としては、チラシ1枚ずつに手書きのメッセージを記したことだ。一方、観光客用アンケートは、直島発フェリーに乗る前の観光客を対象に港で行った。当初はカフェ営業でも配布予定だったが、COVID-19による営業停止を受け、対象者を直島発フェリーに乗る前の観光客に限定した。

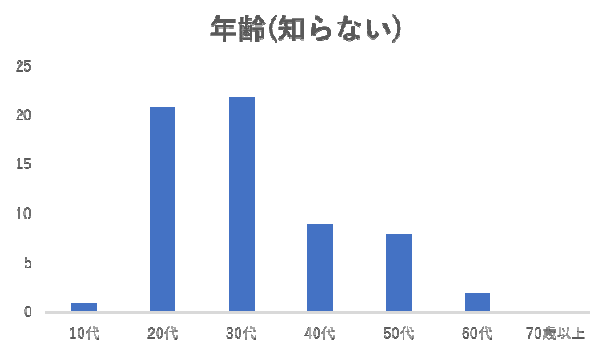
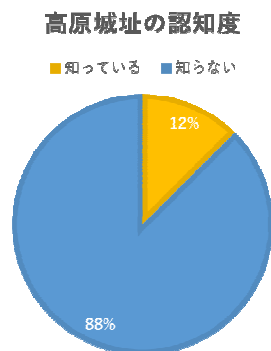
実際に回収できたものは住民が37枚、観光客が60枚で回収率が低かった。その理由として、地域住民用アンケートは、活動の認知度の低さと回収の意義を伝えられていなかったからだと考えられる。観光客用アンケートは、回収する機会が少なかったため、回収率を上げることができなかった。

## 〈地域住民用アンケート結果〉



景観・整備の改善必要性について、「必要・やや必要」と答えた人が8割近く存在し、訪れる頻度は「今までに数回」と答えた人が最も多かった。回答年齢層が70歳以上の住民が約半数を占めていたことも影響する可能性があるが、広場の改善が必要だと考える地域住民は少なくないことが分かる。

## 〈観光客用アンケート結果〉



高原城址の認知度について、約9割の観光客が「知らない」と回答しており、その年齢層は20～30代の若年層が多い。この認知度が低い理由としては、案内板の設置がないため、場所が分からないことが考えられる。直島はアートの島として有名だが、アート観光を目的とする人や、サイクリング目的の人にも立ち寄ってもらえる広報が必要である。



アンケート配布の様子



住民用アンケート回収ボックス

#### ④ 小学生とのワークショップ（中止）→3月にメンバーで桜の植栽（⑥に記載）

12月に小学生とのワークショップを計画していた。内容は午前の部で桜の植樹、午後の部で伐採した梅の木を用いたキャンドルづくりであった。午前と午後に分けて、それぞれ2時間以内の短時間で交流にすることで、コロナウイルス感染対策とした。また、ワークショップの内容から、普段から交流のある直島小学校の小学生を対象とした。午前の部「桜の植樹」では、地域住民が高原城址を守り育てる過程に携わることで、地域とのつながりを感じることを目的とした。午後の部「伐採した梅の木を用いたキャンドルづくり」では、資源の再活用を目的とした。これらにより、高原城址への関心向上の効果があると考えた。

#### 12月イベント集客状況

	応募者数	定員
午前の部（桜の植樹）	3	6
午後の部（キャンドルづくり）	6	6

イベントの集客状況は上記の表の通りである。午前の部が定員割れした理由としては、告知不足が考えられる。告知方法が小学生に対して間接的な手段のみ（小学校でのチラシの配布、SNS）で、植樹による効果や価値を伝えきれていなかった。改善策は3つ挙げられる。私たちは他のイベントで小学生との交流機会しているため、①他の交流機会に告知する、その他では②チラシに私たちの活動メッセージを入れる、③植樹による効果を分かりやすく入れることである。

植えて！作って！  
たかはらじょうし  
高原城址のわかく大作戦  
だいさくせん

12月27日(日)

〈午前の部〉～桜の植樹～  
集合場所：和cafeぐう  
対象：小学生（先着6名）  
持ち物：軍手、飲み物、マスク  
日程：10:00 受付  
植樹  
高原城址探検など  
12:00 終了

〈午後の部〉～梅の木で  
キャンドル作り～  
集合場所：和cafeぐう  
対象：小学生（先着6名）  
持ち物：飲み物、マスク  
日程：13:30 受付  
キャンドル作り  
自由工作など  
15:30 終了

※参加費はいただきません  
主催：香川大学直島地域活性化プロジェクト

イベントチラシ（表）

注意事項

- ・感染症拡大防止のため、マスクの着用、当日ご家庭での検温にご協力をお願いします。体温が37.5℃以上ある場合は参加をお断りしています。
- ・三密を避けるため、保護者同伴の場合は保護者の人数を必ずご記入ください。
- ・イベントは午前の部、午後の部に分けて実施します。両方参加される場合は、昼食は各ご家庭をお願いします。
- ・午前の部は野外にて植樹を行いますので動きやすい服装と靴でお越しください。
- ・午後の部は屋内で行いますが、感染症対策として常時換気を行うため、暖かい服装でお越しください。
- ・締め切り日前に定員に達した場合は、Facebookページでお知らせします。

また、その時点で募集を締め切らせていただきます。

Facebook QRコード

申込方法

メールのみとなっております。①～③をご記入の上、下記連絡先までご連絡ください。  
①氏名(ふりがな)②学年(年齢)③性別④保護者氏名⑤電話番号⑥保護者同伴の有無、人数⑦午前の部、午後の部どちらに参加するか、(両方参加も可能です。)⑧その他(①～⑦以外で何か気になる点がありましたらお申し付けください。)  
mail: [wa\\_cafe\\_gou@yahoo.co.jp](mailto:wa_cafe_gou@yahoo.co.jp)

ご不明な点等ございましたらお気軽に以下の連絡先までご連絡ください。  
香川大学 和cafeぐう  
担当：細川 楓太  
mail: [wa\\_cafe\\_gou@yahoo.co.jp](mailto:wa_cafe_gou@yahoo.co.jp)

申込締切  
2020年12月13日(日)

イベントチラシ（裏）

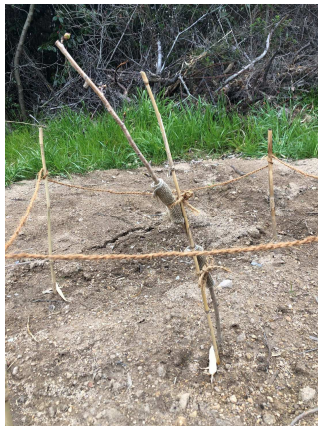


#### ⑤ 菜の花の植栽（中止）

中止となった理由は2つある。1つ目は、新型コロナウイルスにより4か月間（8～9月、12月～1月）の活動休止、3か月間（10月～11月、3月）の活動時間短縮となり、梅の木の伐採に遅れが生じたことだ。2つ目は、梅の木の伐採が遅れたことにより、菜の花植栽のための土の整備が終わらなかったためだ。

#### ⑥ 教員と構成員による桜の植栽

今年3月に、新型コロナウイルスの安全面を考慮して、構成員で植栽を行った。計画通り2本の桜を植樹した。土づくりや、ポットから鉢への苗木の植え替え等、植樹までに様々な準備をして実施に至った。



植栽した桜



植栽メンバー

### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

#### ・ 本学に与えた影響：香川大学の知名度向上

事業を進める中で、直島島民や樹木医等、大学外部の方との関わりがあった。打ち合わせや育成方法のご教授を通じて、「地域に貢献する香川大学」として知名度を向上させることができたと考える。

#### ・ 地域社会に与えた影響：地域住民の高原城址への関心向上

打ち合わせや現地での活動を通して、老人会をはじめとする地域団体や役場職員など多くの地域住民と関わることもできた。その過程で、学生と住民だけでなく、住民同士の話し合いも活発に行われた。私たちが「高原城址を人が集まる明るい場所にする」という明確な目的を持って事業を進めることで、住民の関心が高まり、高原城址を再生させたいという思いを共有することができたと考える。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

### ・多角的な視野が身についた

何度も地域住民との打ち合わせを経るなかで、地域住民が高原城址にどのような思いを持っているのか、どのような場所になってほしいのかということ具体的に把握できた。住民の意向と私たちの考えをすり合わせながら話を進めるなかで、内（地域住民）からの視点、外（学生）からの視点の2つの視点で物事を捉えることが求められ、視野が広がった。

### ・計画性が身についた

この1年を通して、先方との打ち合わせやイベントの事前準備の大切さを実感した。特に打ち合わせでは、先方に分かりやすく説明をするために考えをまとめ、想定外の意見が出て対応できるように数通りの考え方をメンバー内で準備した。

### ・社会人基礎力を養うことができた

社会人の方々との電話やメールでのやり取りを通じて、電話をかける時間帯に配慮することや、メールの正しい書き方を徹底することなど、社会に出ても通用するマナーを身につけることができた。これからもメンバーに社会人基礎力を伝え、より本事業を進めていくなかで社会人の方々と交流を増やしていきたい。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

### 【反省点・改善策】

#### ① 臨機応変に対応できていなかった

12月に開催予定だったイベントが中止になった際、代替案を考えられていなかった。理由は、ミーティング時間の短縮、参加者の偏りによって相談や意思決定の場が減少したからだと考える。実行委員には様々な学部の人々が居るため、夏は全員の予定が合う夜間にミーティングを行い、納得がいくまで議論していた。一方、冬は個人の生活状態の変化に伴い夜間の開催が困難になった。そのため、昼間にミーティングを行ったが、ミーティング時間の短縮、参加者の偏りにより限られたメンバー間での議論のみが行われていた。

改善策として、定期的なミーティング等意見交換の場を置くこと、それぞれが主体的に取り組むことが挙げられる。

#### ② 参加メンバーに偏りがあった

余裕をもって作業の日程調整行えていなかったため、作業候補日が限定されてしまい、参加メンバーに偏りが生じてしまった。理由としては、ミーティングにおいて、直近の作業日しか決定出来ていなかったことや、メンバー間のモチベーションに差が生じていたからだと考えられる。

改善策としては、1か月先の計画も立てることや、メンバーの状況把握、情報共有の徹底をして解決していきたい。具体的には、面談等話す機会を増やして、相手の現状理解から始めていきたい。

### ③ 地区全体への活動周知ができていなかった

打ち合わせを通じて関わった地域住民はごく一部で、多くの住民へはイベント告知やアンケートでしか活動を周知できていなかった。私たちの事業は住民の理解を必要とするものであるため、より住民へ周知する必要がある。

改善策としては、活動内容をまとめたチラシ作成・配布をしたいと考える。一度ではなく定期的に配布することで、住民の理解を増やすことができ、関心を高めることにも繋げることができる。

#### 【今後の展望】

まず、高原城址においては、「再び人々が集まる明るい場所にする」ことを目的に、直島地域活性化プロジェクトとして広場の整備や広報活動を続けていく。

そして、地域住民の方々と連携をより一層強めていきたいと考える。直島には地域住民発足のボランティア団体や老人会があるため、その方々との協力体制を築きたい。また、打ち合わせを通じて新たに、地域住民間で若者と年長者の交流が少ないという問題が見つかったので、この問題についての施策も考えていきたい。

最後に、メンバーに対しては、報告・連絡・相談をしやすい環境づくりをしたいと考えている。社会に出ると基本とされる3要素だが、今年度は少なかったように思う。そのため、メンバー一人一人とコミュニケーションを取ることで、報告・連絡・相談をしやすい環境を整えていきたい。

#### 【感想】

一年を通しての学びが多く、成長できたと感じている。事業を立ち上げる経験は、学生生活のなかで限られているものだと思う。その立ち上げを通じて、試行錯誤して悩むことも多かったが、同時に地域住民やメンバーと交流を深め、楽しみながら活動することができた。

私たちが一年間事業を遂行できたのは、住民や直島町役場、直島町観光協会のみなさん、そして大学関係者のご協力によることが大きい。これらのみなさまのご協力に感謝いたします。

## 7. 実施メンバー

代表者	江田 紗月	(経済学部3年)		
構成員	岡林由里子	(経済学部3年)	津村 祥平	(創造工学部3年)
	蝦名 亮汰	(経済学部3年)	後藤 洸樹	(経済学部3年)
	十河 鈴	(農学部2年)	智葉 瑛海	(法学部2年)
	長尾 美玖	(法学部2年)	増山 迅	(経済学部2年)
	江口 舞香	(経済学部2年)	松下 将也	(経済学部2年)
	川北 明乃	(法学部2年)	小坂 伊織	(工学部1年)
	荒木 海斗	(経済学部1年)	細川 稜太	(経済学部1年)



石川 敦也 (経済学部1年)  
井上 征哉 (法学部1年)  
洲脇ちひろ (経済学部1年)  
長尾 佳奈 (農学部1年)

日浦 涼 (経済学部1年)  
松本 良太 (経済学部1年)  
藤森 世紀 (経済学部4年)  
後藤 紀史 (工学部大学院2年)

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		178,107円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
交通費	24	1,190	28,560	
WS材料費	14		10,901	
広場整備用資材	29		111,198	
活動消耗品費	20		23,550	
合計			174,209	